LINE みらい財団

子どもたちがネットの特性や問題点を理解し、トラブルが起きた場合の対応を自ら考える

自治体独自の活用型情報モラル教材 GIGAワークブックのご案内

GIGAスクール構想
デジタル・シチズンシップ対応

version1.2

p2 子供たちのネットに関するトラブルでお困りではありませんか？
近年の教育現場は変化…対応した情報モラル教育が求められている

p3 情報モラル教育に取り組むLINEみらい財団のご紹介
LINEみらい財団実績紹介（全国自治体との協定/教材開発　等）

p4 活用型情報モラル教材「GIGAワークブック」とは
「GIGAワークブック」３つのポイント

p5 「GIGAワークブック」自治体導入事例（神奈川県鎌倉市）
地域に合わせたカスタマイズにも対応

p6 教員向け手引書もご用意
よくあるご質問

p7 「GIGAワークブック」導入までの流れ
お問い合わせ（LINEみらい財団）

子供たちのネットに関するトラブルでお困りではありませんか？

トラブルの整理
現在のネットに関するトラブルは、大きく以下のように分類することができます

1 長時間利用

ゲームや動画、コミュニケーションにかかわる時間を使いすぎたり、「ながらスマホ」をする。

2 高額課金

たくさんのお金を使って、ゲームのアイテムなどを購入してしまう。

3 不適切サイトの閲覧

性的描写や暴力表現など青少年にふさわしくないサイトを閲覧する。

4 出会い

SNS で知らない人から会うことを求められたり、自分の画像を送ることを求められる。

5 著作権の侵害

無許可の映像や音楽のアップロードや、違法と知りながらの音楽や映像をダウンロードする。

6 不適切情報の発信

悪ふざけの写真やデマなどを SNS で発信する。

7 個人情報の投稿

SNS へのテキストや写真などの投稿から、個人を特定できる情報を流出させる。

8 悪口・いじり

グループトークでいじりや無視をしたり、短文の意味の取り違いによって誤解してしまう。

ネットトラブルの様々なパターンに対応した情報モラル教育が求められています

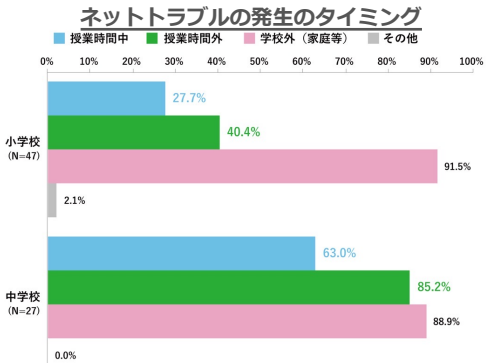
近年の教育現場は変化…対応した情報モラル教育が求められている

近年では教育現場における変化も‥‥

新型コロナウイルス感染症拡大による教育のオンライン移行

GIGAスクール構想で1人1台端末利用へ

ネットトラブルは校内でも発生するように
（家庭の問題だけでなく学校の問題に）



LINEみらい財団「一人一台端末環境におけるICT活用と情報モラル教育の実践に関する調査報告書」(調査期間：2021年2月～3月)より

現環境に対応した教材が求められる中‥‥

LINEみらい財団はGIGAスクール時代に対応し明日から実践できる活用型情報モラル教材「GIGAワークブック」を開発

情報モラル教材に取り組むLINEみらい財団のご紹介

LINEみらい財団の活動・実績紹介

LINE株式会社（現：LINEヤフー株式会社）では、2012年より青少年のインターネット利用環境の整備に取り組み、CSR活動の一環として、学校や企業、行政機関などと連携しながら、情報モラル教育活動を展開しています。

教材開発

ネット、SNSトラブルをカード教材や事例を交えながら児童・生徒が“自ら考える”教材を静岡大学と共同開発

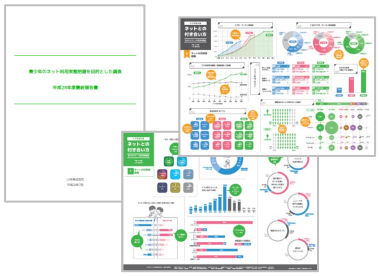
※教材イメージ

講演活動
（オンライン出前授業）

全国の小・中・高等学校や自治体、関係機関において、累計1万回以上講演活動を無償で展開

教育機関との共同の取り組み

教育委員会や大学、企業などと連携し、各地域の実状や課題にあわせ、情報モラル教育に関する共同の取組みを実施

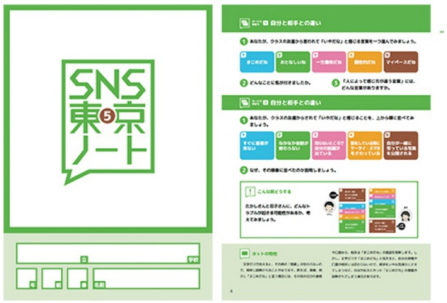


LINEみらい財団は、これまでの一連の教育活動から得られた知見やノウハウを、個社のCSR活動に留まらず広く社会に貢献し、より広域的・永続的な活動とするため設立されました。

情報モラル教材「SNSノート」の開発/全国教育機関との協定

①東京都と「SNS東京ノート」の共同開発

これまでカード教材等で培ったノウハウをもとにネット・SNSとの関わり方について、学校の授業で児童・生徒たちが主体的に話し合いながら学べる情報モラル教材（冊子/PDF）。
「SNS東京ノート」（小学校低・中・高 各1冊、中学校1冊、高校1冊）は都内の小・中・高・特別支援学校に配布され、各学校で活用されています。



東京都版
（2017～）

②全国教育機関との共同の取り組み

「SNSノート」は全国各地の自治体・教育委員会・学校現場等で、地域独自の公式教材として活用いただいています。

長崎県版
（2019～）

大阪府版
（2021～）

静岡県版
（2021～）

And more …

活用型情報モラル教材「GIGAワークブック」とは

「GIGAワークブック」 はLINEみらい財団がこれまでの「SNSノート」を現在の教育現場のニーズにあわせたアップデート新教材

✓ ICTやインターネットが学習の必須ツールになる時代において、
情報モラル教育もアップデートが必要

✓ 情報やICTを上手に活用し、デジタル社会に参画するための
「情報活用能力」育成の重要性

これまでの「SNSノート」を現在の教育現場のニーズにあわせ
アップデートした

活用型情報モラル教材
「GIGAワークブック」を開発

※LINEみらい財団が、国立大学法人静岡大学教育学部 准教授 塩田真吾氏と共同で開発

GIGAワークブックは、子どもたちがネットの特性や問題点を理解し、トラブルが起きた場合の対応を自ら考えることができる活用型情報モラル教材です。
またGIGAスクール構想（一人一台端末）に対応し、先生たちが学校授業でそのまま使える教材となっています。

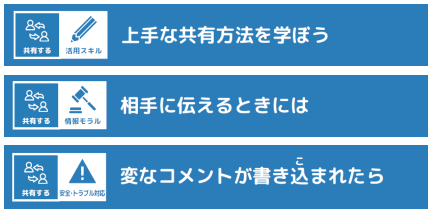
「GIGAワークブック」のポイント

**「情報活用」と「情報モラル」をセットで学べる！
様々なICT活用場面や生徒の成長過程に応じた活用方法も可能**

ポイント①

✓ **情報活用と情報モラルをセットで学ぶ**

これまでの情報モラル教育は、情報のリスクのみが強調されることが多くありました。本教材では、リスクだけでなく、上手な情報活用と情報モラルをセットにして学ぶことができます。



ポイント②

✓ **活用場面に合わせ45分でも15分でも実施、議論可能**

情報モラル教育は、学級活動や道徳、総合的な学習の時間などを使い、45分で実施するケースが一般的です。本教材は45分の実施に加えて、ICTの活用場面（調べる・考える・交流する…）において15分で学ぶことができます。個々に知識を身につけるのではなく、友達と議論しながら考えを深めていくことができます。

ポイント③

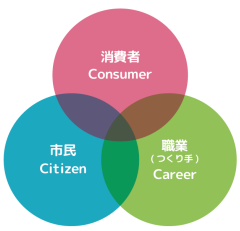
✓ **3C（消費者、市民、職業人・つくり手）の視点で考える**

よき消費者（Consumer）　リスクを回避し上手に使う（個人のモラル・スキル）

よき市民（Citizen）　情報社会に参画する （社会・他者への働きかけ）

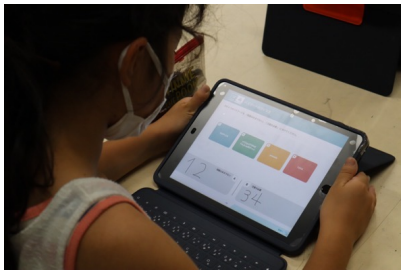
よきつくり手（Career）　新しい情報社会をつくる（新しい技術・サービス）

※生徒の成長段階（小学校低学年～中学・高校など）に応じ、様々な視点で学べるコンテンツを掲載しています。



「GIGAワークブック」自治体導入事例（神奈川県鎌倉市）

自分と相手の感じ方の違いを理解し、トラブルを未然に防止できる内容などを実施
（画像はタブレットを使った授業、児童・生徒同士がワークで議論している様子）



2023年9月時点、GIGAワークブックは9都県35自治体が導入決定。

地域に合わせたカスタマイズにも対応

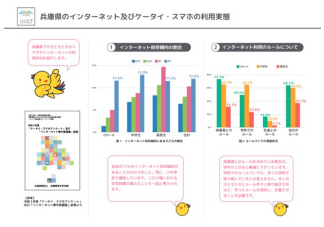
GIGAワークブックはベース教材に加え、地域独自のコンテンツを盛り込むことが可能

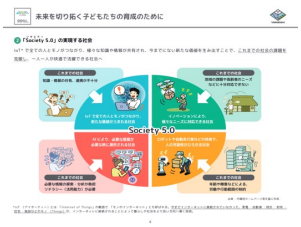
✓ **自治体公式教材としてカスタム表紙デザインでご提供**
地域をイメージできるアイコンイラストの作成、地域のキャラクター等の使用など

✓ **オリジナルで最大6ページまで追加可能**
例えば、地域の独自調査結果、地域で定める育成目標やルール、教育長様からメッセージなど

✓ **導入いただいた自治体様には教員向け研修（オンライン）を無償で実施可能**
タイトル：GIGAスクール時代における「明日から実践できる活用型情報モラル教育」

神奈川県
鎌倉市版



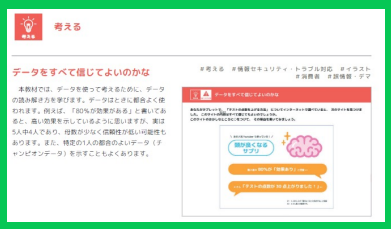


山梨県版

教員向け手引書もご用意

教育現場の先生自らGIGAワークブックを活用した情報モラル授業を行うことが可能に

教員向け「活用の手引き」イメージ



よくある質問

学校・教育関係者のご質問意見等

① どのような順番で進めればよいですか？

→本教材は、最初から順番に進める必要はありません。例えば、活用場面で選んでいただき、写真を撮ったり、 共有したりする場面でご活用いただいたり、トラブルで選んでいただき、トラブルを防ぎたい時にご活用いただいたりすることも可能です。15分・45分と区切りがあるので、学校の年間カリキュラムに差し込むこともできます。

② 自主学習でも利用できますか？

→本教材は、自主学習でもご活用いただけますが、ドリル学習のように一問一答形式ではありませんので、おすすめは、授業の中で、個人で考えてからグループで共有する方法です。正解を学ぶのではなく、どうすれば上手に使えるのか、何がリスクなのかについて子ども達が話し合っていくことで、多様な考えに触れることを目的としています。

③ デジタル・シチズンシップに対応していますか？

→対応しています。本教材では、３Ｃ（消費者、市民、職業人・つくり手）の視点から教材を構成しています。 「消費者」としてモラルを身につけ、リスクから身を守ることはもちろんのこと、「市民」として情報社会に参画し、社会に働きかけること、さらには、「職業人・つくり手」として、新しい情報社会をつくっていくと いう内容が入っております。発達段階によって内容の比率が変わっており、小学校は消費者の内容、 中学校では市民の内容、高校では職業人・つくり手の内容が多く含まれています。

※今後も教育現場のご意見・ご質問等を参考に教材をアップデートする予定です。

「GIGAワークブック」導入までの流れ

23年度の導入に向け、ぜひ前向きにご検討ください

初回のご説明
財団担当者より30分程度で全体概要をオンラインMTGにてお伝えします。

自治体様からの申し込み

覚書
入稿物の提出

※ご提出いただいた自治体様順にデザインなどのご対応をさせていただきます。

入稿データの調整/納品

入稿後の調整内容にもよりますが、自治体様からの書類提出から１ヶ月程度で初稿をご提出させていただいております。

①スタンダード
（主に小学校4～6年生向け）

②ビギナー
（主に小学校1～3年生向け）

③アドバンスド
（主に中・高校生向け）

④活用の手引き（教員向け）３冊

お問い合わせ

LINEみらい財団　自治体連携窓口

LINEみらい財団が提供する自治体独自の情報モラル教材『GIGAワークブック』についてのお問い合わせ、覚書の締結などについては以下のメールからお気軽にご相談ください。

一般財団法人LINEみらい財団
GIGAワークブック担当（高野、志村）
contact@line-mirai.org

「GIGAワークブック」（汎用版）より教材の内容をご確認いただけます。
※汎用版についてはどちらの方でも利用できます。

ダウンロードはこちら

LINE みらい財団